編集後記

共学化 2 年目を迎えた中等部は、これまでの教育実践を継続しながらより良い在り方を模索する途上にある。戦後 80 年の節目となる広島研修旅行では、現地で感じ考えたことを自分たちの言葉で初等部生に伝える機会を得た。「伝える責任」は、平和学習に限らず、自由学園の学びに通底する重要な視点であると言える。学びを他者と共有し深める過程の一つとして、今後も様々な場面で活かされていくことが期待される。過去との対話を通して未来を考え、多様な対話を重ねながら形づくられていく中等部の教育。その歩みを記録した本年報が、より豊かな実践へつなげていくための一助となることを願う。　　中等部　佐伯美和

2025 年度も様々な取り組みのなかで、これまで引き継がれてきたものと新たな挑戦が入り混じった高等部の1年間でした。苦労も苦心も多いものでしたが、それはまた文字どおり「手作りの教育」の連続でもありました。学校生活も寮生活も、日常の生活も行事などの特別な時間も、生徒にとっても教職員にとっても多くの気づきと学びをもたらしています。一方で、中高の繋がりはもちろん、幼児生活団や初等部、最高学部との繋がりももっと盛んにしていくことにも力を入れなければなりません。現在あるいくつかの取り組みを続け、さらに新しい展開にも挑戦して、自由学園の「一貫教育」を充実させたいと思います。

高等部　咲花昭嗣

2025 年度も、最高学部では様々な研究・教育実践活動が行われた。核として毎年行われる教育活動だけでなく、戦後 80 年にあたる年に教育活動と戦争と平和と考えるリレー講義を開いたことは特筆すべきことだった。多忙な中、教育実践を展開し、それを伝えるために原稿を執筆してくださった方にまずは感謝したい。そして最高学部の活動を支えていただいた多くの方々に感謝すると共に、年報をお読みいただいた方々に最高学部の教育実践が広く伝わることを願う。

最高学部　奈良忠寿

2025 年は戦後 80 年の年だった。平和を創る人を育てる学校として、自由学園はこれまでさまざまな取り組みを行ってきたが、今年度は特に過去の戦争について考え、学ぶ時を持ったので、特集記事を組んだ。また、学園長直轄のプロジェクトが3年計画で始動した。これについても記録を残す必要があるため、巻末に入れている。学校は、いつの時代にあっても社会の動きと無関係ではいることはできない。しかし、社会変化の中にあっても、常に創立者の教育理念や実践の意味を考え、継承すべきこと、また形を変えて続けることなどを取捨選択していく必要が私立学校にはある。そのための参考資料となるように、この年報の編集をしている。お忙しい中、執筆・編集にご協力くださった皆様に感謝いたします。

資料室　菅原然子